

山陰若狭沖冷水域の近年の接岸状況

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2025-02-18 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 加藤, 修, 市橋, 正子, 山田, 東也, 渡邊, 達郎 メールアドレス: 所属:
URL	https://fra.repo.nii.ac.jp/records/2013312

This work is licensed under a Creative Commons Attribution 4.0 International License.



山陰若狭沖冷水域の近年の接岸状況

加藤 修・市橋 正子・山田 東也・渡邊 達郎(日本海区水産研究所)

1. はじめに

本報告では、1964年以降における山陰若狭沖冷水域の接岸状況の概要について説明するとともに、2003年の接岸が過去40年でどの程度のものであったのかを明らかにする。

2. 用いたデータ

日本海区水産研究所では、日本海ブロック所属水産試験研究機関、舞鶴海洋气象台等によって1964年以降実施されている観測から得られたデータに基づき、3月、6月、9月、11月について山陰若狭沖冷水域の接岸状況を把握するため、赤崎、余部、経ヶ岬、越前岬及び金沢の5地点から100m深水温分布図における指標等温線(3月:10℃、6月:11℃、9月:15℃、11月:15℃)までの最短距離を求め、これを「接岸距離」として整理している。そして、上記5地点のうち赤崎を除いた4地点の接岸距離の平均値を、「山陰若狭沖冷水域の接岸距離」として海況予報で使用している。今回は、季節的に冷水域の張り出し状況を把握しやすく、かつデータの欠測がない6月の値を用いるとともに、各地点での接岸距離の経年変動について比較した。

3. 接岸距離の経年変動

余部・経ヶ岬・越前岬・金沢の4地点における接岸距離の平均値の経年変動によると、山陰若狭沖冷水域は1990年までは離岸・接岸を交互に繰り返しながら変動しており、1980年代には接岸傾向がかなり強いが、1991年以降2002年までは接岸することなく経過しており、特に1992年には著しく離岸している。このため、2003年の接岸は1990年から13年ぶりのものであり、その程度(岸までの近さ)は、1964～2004年の中で1984年、1975年、1988年に次いで歴代4番目である。

赤崎を含めた5地点における6月の接岸距離の経年変動を比較すると、赤崎及び余部では2～3年程度の短い期間で離接岸を繰り返すことが多いのに対し、残りの3地点については短期間での変動は比較的小さく、余部と経ヶ岬の間で変動パターンがかなり異なっている。ただし、金沢の変動パターンは2000年以降の状況をはじめ、経ヶ岬・越前岬のものとは異なる場合もかなりある。3年間の移動平均をみると、1990年以降は概ね離岸傾向である場合が多く、特に経ヶ岬及び越前岬では顕著で1992・2001年には大きく離岸している。2003年において、赤崎と経ヶ岬については1964～2004年の中で歴代2番目、余部は3番目の接岸した状況であったが、越前岬と金沢はそれぞれ10番目、17番目であり、山陰若狭沖冷水域は丹後半島以西を中心として接岸していたと考えられる。